

桜の品種紹介



コシノヒガン

キンキマメザクラとエドヒガンの種間雑種と考えられる栽培品種です。ソメイヨシノに似ているが、やや小型です。



オカメザクラ

カンヒザクラとマメザクラから生まれた栽培品種です。小型で、花は下向きに咲きます。

桜の写真提供：(公財)日本花の会



ソメイヨシノ

桜の代表的な園芸品種のひとつです。葉が出る前にピンク色の花を咲かせます。

【桜の開花カレンダー】

品種	開花期	3月	4月
コシノヒガン		—	
オカメザクラ		—	
ソメイヨシノ		—	

桜守活動について

桜守活動とは、地域の方が日常的に桜を見守り、保全していくボランティア活動のことです。桜並木を保全していくためには、地域の皆さまの参加が大きな力になります。地域の皆さまとともに、桜並木を将来に伝えていきます。

【桜守活動の例】

- ◆ 桜の継続的な観察・・・開花状況の記録や枯枝、病気等の異常の発見を行う
- ◆ 施肥や水やり・・・季節ごとに肥料を施す、土壌の乾燥を防ぐ
- ◆ 花芽観察・・・花芽の数を観察し桜の健康状態を把握する
- ◆ 清掃活動・・・開花時や落葉時の清掃を行う、落ち葉堆肥を作る など



桜の花芽観察

目黒のサクラ保全事業の流れ

1 樹木診断

樹木医による診断を行い、個々の桜の状態を把握します。倒木の危険がある桜については先行して伐採を行い、安全確保を図ります。

2 サクラ再生実行計画の作成

桜の保護や植替えなどの将来像について地域の皆さまと検討を行い、地域にあったサクラ再生実行計画を作成します。

3 保全・更新

サクラ再生実行計画に基づき、桜の伐採や抜根、植替えを行います。また、弱っている桜を保護します。

目黒のサクラ基金

サクラ基金はふるさと目黒の桜のある風景を後世に伝えるための基金です。公園等の桜の保護・植替えなどに活用しています。詳しくは目黒区ホームページをご覧ください。みどり土木政策課までお問い合わせください。

URL <https://www.city.meguro.tokyo.jp/gyosei/zaisei/kifu/kikin/sakurakikin.html>



ふるさと
チョイス HP



ふるさと
パレット HP

お問い合わせ先

目黒区都市整備部みどり土木政策課施設計画係

〒153-8573 東京都目黒区上目黒 2-19-15
TEL.03-5722-9745 FAX.03-3792-2112
Mail : midoridoboku04@city.meguro.tokyo.jp

平成29年3月
目黒区



サクラ再生実行計画 HP

ふるさと目黒の
桜を後世に伝える

碑さくら通り
田向円融寺通り
碑文谷五丁目緑地
サクラ再生
実行計画

竹クラ再生
実行計画

碑さくら通り

地域のシンボルとなっている 桜並木の景観を将来にわたって引き継ぎます

桜景観を将来にわたって引き継ぐため、ソメイヨシノで植替えを行います。狭い空間では、ソメイヨシノと似た雰囲気のコシノヒガンで植替えを行います。



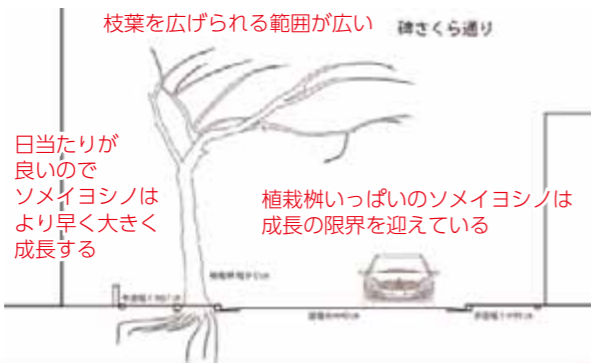
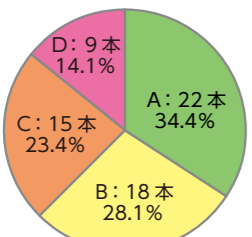
ソメイヨシノで植替えたイメージ



コシノヒガンで植替えたイメージ

桜並木の現状と課題

平成 27 年度樹木診断結果



A: 健全か健全に近い
B: 注意すべき被害が見られる
C: 著しい被害が見られる
D: 不健全

碑文谷五丁目緑地

竹クラ再生
実行計画

小さな通りでも桜を楽しめる道にします

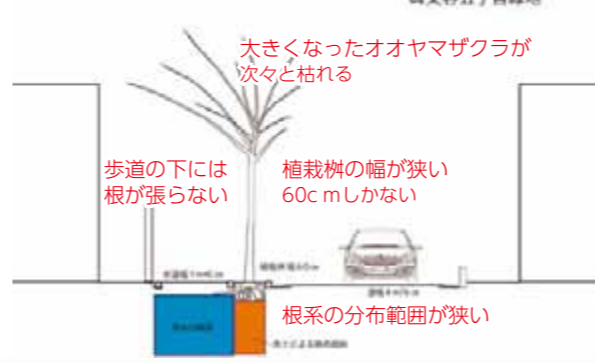
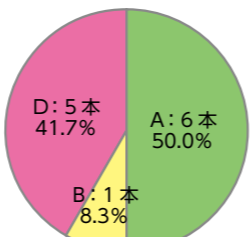
小さな通りでも桜を楽しめる道にするため、オカメザクラで植替えを行います。オカメザクラは、広卵状の小型の品種で、花の色がやや濃い印象的な桜です。



オカメザクラで植替えたイメージ

桜並木の現状と課題

平成 27 年度樹木診断結果



A: 健全か健全に近い
B: 注意すべき被害が見られる
C: 著しい被害が見られる
D: 不健全

田向円融寺通り

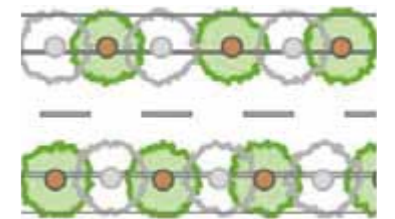
竹クラ再生
実行計画

地域のシンボルとなっている 桜並木の景観を将来にわたって引き継ぎます

桜景観を将来にわたって引き継ぐため、ソメイヨシノで植替えを行います。両側の歩道に桜が植栽されている場所は、互い違いの位置に桜がある配置（千鳥の配置）となるようにして、樹冠を広げられる空間を確保しつつ、桜のトンネルの景観を維持します。



ソメイヨシノで植替えたイメージ

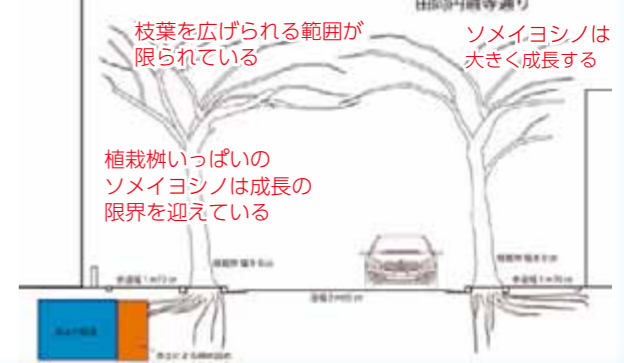
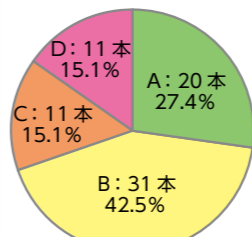


千鳥の配置イメージ

● 保全や植替えする樹木
○ 衰退したら伐採のみ行う樹木
○ 現況の樹冠

桜並木の現状と課題

平成 27 年度樹木診断結果



A: 健全か健全に近い
B: 注意すべき被害が見られる
C: 著しい被害が見られる
D: 不健全

竹クラ再生
実行計画

桜並木の再生に向けて 保 全

●現在の桜を健全に育て、できる限り長く残していきます。

施肥や土壌改良をします

根の活力不足で弱っている木には、根の周りに穴を掘り空気や水が届くようにするとともに、固形肥料を施して活力を向上させます。植替え時は、保水性改良材を混入した良質客土に入れ替えます。



定期的に剪定をします

枝葉を伸ばすことのできる範囲が限られている街路では、成長する桜の樹形をコントロールする必要があります。定期的な剪定をします。また、枯枝や衰弱した枝は、落下する危険性があるため随時切除します。



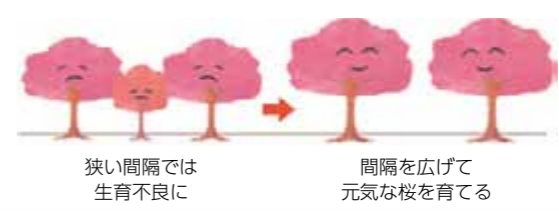
竹クラ再生
実行計画

桜並木の再生に向けて 更 新

●桜を植える際に、健全な生育環境を整備します。
●倒木の危険が生じた樹木については伐採し、周辺環境に合わせて植替えを行います。

適切な植栽間隔を確保します

碑さくら通りと碑文谷五丁目緑地の多くの桜は、適切な間隔で植栽されていますが、田向円融寺通りでは、狭い間隔（5～6m）で植栽されている場所もあり、樹勢に影響を及ぼしている状況です。植替え時は、成長後の大きさを見越して適切な植栽間隔（8～10m）を確保して植替えを行います。また、車両からの視認を考慮し、交差点や横断歩道付近には新しく桜は植えません。



狭い間隔では生育不良に

間隔を広げて元気な桜を育てる

根上がりを対策し、歩道の段差を防ぎます

桜の根は土壌の浅いところにも多く広がって成長します。土壌表面を走るように伸びる根は、太くなる性質があり、縁石や舗装を持ち上げてしまいます。新植の際に防根シートを植栽樹の内側に敷設することで、根を深い位置に誘導し、根上がりを対策します。